

豊かな流れ

薄いプライドくるくる巻いて
誰もがみんな人生流れの途中
意識無意識いろんな駆け引き考えて
善悪の狭間で考える
思い出刻み込むのは結果だけ

移ろう気持ち認めつつ
時折誰かの天使に心遊ばせ
小さく心の冷えを防ぐのか

背中ぞくぞく冷え込んで
やっぱり時の速さに居直り惑わされ
仕方ないよと繰り返し返す

ため息を
何となく背中に負って生きているような
着膨れて戻らぬ言葉は
美しすぎて慰めも知らず
いつまでも出会わぬ自分の言葉探してる

陽の匂いまだらに照らされて
いたずらに誘惑する自然
かびの生えた心に割り込まないで
青い空は夢の

白い雲は空想のカーニバル
昔見た希望の映画が舞い戻り
優雅な魔法は引き換えに私の大切な時間を奪っていく
このまま死ぬまでゆっくり自我に惚けていたいよね

心色

奇妙な色に縛られている
心が満たされなくて
とりどりの花を飾り
未開の華を探す

未開の大地
未開の大地はどこなのか
見たことのない世界を覗いてみたい
開いたことのない自分の引き出し
食わず嫌いの引き出しを思い出す

縛られている事なかれ主義
そこをはみだして
成功した人の真似をする
とんでとんで飛んで
自分遠ざけアンテナ広げて敏感になる

無視してきた無為なもの
ありとあらゆる種を蒔き
考えないで盛り上がる
少し濡れている
少し濡れている
刺激の音階に空しさが消されて
生き返ってる
飽きないように人を生きるための一工夫
自分の色なんて決めなくていい
燃え殻ごとき古色に春風が吹く